

◎上西小学校校歌の意味を考える。

集落支援員だより

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一 編集
連絡先090-9579-3953
上西校区長責任発行



上西小学校 校旗

前は歌詞に使われている個々の言葉について書きましたので、今回は歌詞全体を通した解釈（私見ですが）をお伝えします。
←(校章は、学びを象徴するペン先と風光明媚な上西に咲きほこる山桜をモチーフにしたものです。昭和40年制定)

上西小学校校歌

作詞 平山 武章
作曲 林 幸光



緑の八面にこだまする
希望の鐘は わが母校

(左上)希望の鐘～今は校長室前にあり昭和29年全校風景(右上)榎本常喜校長先生

54年ぶりに発見された「希望の鐘」を、あなたの手で響かせてください。

一 はるか遠い昔より種子島を護り、島民の安寧を願うという四人の神様が伊勢神社にはおられる。その神様たちに守られて、上西に息づいている伝統が鳴り響く鐘のように伝わっていく。輝く光を掲げて、集うはわれらの上西小学校。

二 未来を想像しながら、夢を語ろう。伊勢神社の境内からの花咲く菜園、花里を見るたびに心が晴れる。新しい知識を手にするたびに校舎の窓には新しく生まれた白雲が湧くのが映る。先人たちが築いた歴史を誇りに未来を見すえて、朗らかに進もう。

上西の未来は、わたしたちのものだ。

三 ときおり近くに見える口もある大隅半島。海峡を走る黒潮は岩をも砕く。しかし大崎の板敷鼻に居座る巨岩は黒潮にも負けない。その岩よりも固い志をもとう。わたしたちの強い意志が山々にこだまとなって響き、互いに高め合う。まるで希望の鐘が鳴り響くように。それがわたしたちの上西小学校。

上西小学校校歌のすばらしさは歌詞だけではなく、歌いやすい音階で始まり、徐々に盛り上げていくメロディーの美しさ、なじみややさしさにも見られます。加えて後半部の緩急を交えたテンポで高揚感をあたえる校歌は、名曲と言っても言い過ぎではありません。

※5/25付けの集落支援員だよりで久保之正（くぼこれまさ）は、ある方から（くぼゆきまさ）であると教えていただきました。訂正してお詫びいたします。また先日はヤッコソウの取材紹介を受けました。うれしいことです。今後とも、よろしくお願ひします。